

論理的に考える

ごっこあそび



子どもたちのままごとあそびやごっこあそびに、大人も積極的に参加しましょう。会話のなかで「包丁は危ない」「赤信号は止まれ」「寝る前は歯磨き」など、マナーやルール、生活習慣などを伝えていきます。

育つこと

ひとりあそびや、お友だちとあそぶこともできるようになってきていますが、できるだけ大人もあそびに参加しましょう。ままごとあそびやごっこあそびには、社会性を育てるきっかけがたくさんあります。

記憶する

これはだれの？



動物の足形の絵カードを見せて「これは誰の足だ？」とクイズをします。他にも耳だけ、鼻だけ、餌などの特徴をまとめてクイズにしてもOK。中に人間の絵カードを入れておいても楽しいですね。

育つこと

記憶するときは、ひとつのことにさまざまな特徴を関連づけて、記憶量を増やします。何かを記憶するとき、周辺情報や人のつながりなども一緒に記憶すると、思い出しやすいということを学びます。

数字を認識する

どっちの数が多い？



ままごとあそびや実生活の中で、数をかぞえて、どちらが多いか比べます。おやつやおかずを分けるときには、「ママのは1、2、3で3つ、○○ちゃんは1、2で2つ。どっちが多いかな？」と考えます。

育つこと

どちらも、数をかぞえるあそびです。どっちの数が多い？ は、数をかぞえることで、どちらが多いか少ないかわかることに気づかせます。秒針を見ながら数えると、息を合わせやすく面白くなります。お風呂でも「100まで数えてあがろう」など、数に親しみましょう。

数字を認識する

チクタク時計かぞえ



時計の秒針の動きに合わせて「1、2、3」と数をかぞえます。11以上が難しいときは、その都度「1、2、3」に戻ります。1周回って60秒のところに来たら、「ピーン」と楽しい声で終わります。